

広島県臥竜山における 1992 – 2008 年の鳥類標識調査結果 — 主として夏鳥の渡来状況について —

日比野 政彦

安田女子大学

Bird Banding Data from 1992 to 2008 in Mt. Garyu, Hiroshima Prefecture

Masahiko HIBINO

Abstract : To study the avifauna, a mist net method was used at Mt. Garyu from 1992 to 2008, total 122 days. Fairy Pitta *Pitta nympha* was recorded at first time. It functions as waystop of Siberian Blue Robin *Luscinia cyane*, Blue-and-white Flycatcher *Cyanoptila cyanomelana*, Narcissus Flycatcher *Ficedula narcissina*, Short-tailed Bush Warbler *Urosphena squameiceps*, Eastern Crowned Leaf Warbler *Phylloscopus coronatus* and Mugimaki Flycatcher *Ficedula mugimaki*. It is suggested that Siberian Thrush *Zoothera sibirica*, Pale Thrush *Turdus pallidus*, Grey Bunting *Emberiza variabilis* and Yellow-throated Bunting *Emberiza elegans* bred in Mt. Garyu.

はじめに

広島県山県郡北広島町の臥竜山は、西中国山地国定公園の特別保護地区に指定されており、探鳥地としても知られている。臥竜山の鳥類相についてはこれまでに大丸らの調査があり、66種の鳥類を報告している（大丸 1980）。その後、上野らは73種の鳥類を臥竜山で確認している（上野ほか 1996）。さらに、日比野は標識調査の結果として夏鳥の変動について報告している（日比野 2001）。

このほか、国内で初めて、臥竜山でシロハラ *Turdus pallidus* とミヤマホオジロ *Emberiza elegans* の営巣が確認されている（上野ほか 1993, 1995, 1996, 1997）。さらに、2003年にはじめて外来種のソウシチョウ *Leiothrix lutea* が臥竜山で確認された（上野ほか 2004）。

筆者は臥竜山における夏鳥の渡りについて明らかにする目的で、1992年から2008年にかけての17年間、8月中旬の夏鳥が移動する時期にのべ122日間、年平均7日間標識調査を行った。17年間の標識調査の結果、若干の知見が得られたので報告する。

調査地の概要

臥竜山（西中国山地、34° 41' N, 132° 10' E, 1,223m）は広島県北西部に位置している（図1）。

調査地は標高約1,050mから1,100mの北側斜面である。植生は高木・亜高木層ではブナ *Fagus crenata* が優占し、他にトチノキ *Aesculus turbinata*, サワグルミ *Pterocarya rhoifolia*, イタヤカエデ *Acer mono* などがみられる。低木層ではクロモジ *Lindera umbellata*, オオカメノキ *Viburnum furcatum*, タンナサワフタギ *Symplocos coreana* など、草本層では、オクノカンスゲ *Carex foliosissima*, コバノフユイチゴ *Rubus pectinellus*, ヤマソテツ *Plagiogyria matsumureana* などがみられる（図版 1-A, B, C, D）。

調査方法

標識調査は1992年は7月29、30日、9月6日の3日間。1993年は5月11、13、14日、8月28日、9月4、5日の6日間。1994年は5月28、29日、7月2、3日、8月17、26、27日、9月3、4日の9日間。1995年は5月28、29日、6月10日、7月8、9、25日、8月15、16、18、19日、9月4日の10日間。1996年は5月3、11日、6月1日、7月14、30日、8月17、18日、9月7日の8日間。1997年は5月4日、6月1日、7月5、24、25日、8月16、17、23、24日の9日間。1998年は7月24、25、28日、8月13、14、15、16日の7日間。1999年は7月10、11、25、26日、8月13、14、15、16、17日の9日間。2000年は7月21、22日、8月12、13、14、15、16、20日の8日間。2001年は6月30日、7月20、21、22日、8月14、15、16、17、18日の9日間。2002年は5月12日、6月16、23日、8月14、15、17、18、20、21、22日の10日間。2003年は6月1、14、15、29日、8月15、16日の6日間。2004年は9月4、5日の2日間。2005年は7月29日、8月13、14、16、20、21日、9月11、12日の8日間。2006年は8月12、13、14、15、16、20日の6日間。2007年は8月12、13、14、15、16、18、19日の7日間。2008年は8月9、10、14、15、16、17、18日の7日間。17年間で、のべ122日間調査を行った。

環境大臣の許可を得て、かすみ網（36メッシュ、長さ12m、高さ2.6m）を水場として利用されている、標高約1,050mと1,100mにある2本の沢に各7枚と6枚の計13枚張った。捕獲した個体については性、年齢を調べ、外部形態を計測し、環境省の鳥類標識用の足環を装着した後、写真撮影して放鳥した。

調査結果

臥竜山の2本の沢における、1992年から2008年にかけての17年間の標識調査の結果を表1に示す。

キツキ科ではアオゲラ *Picus awokera* を1羽、アカゲラ *Dendrocopos major* を9羽、オオアカゲラ *D. leucotos* を2羽、コゲラを *D. kizuki* を1羽標識した。1993年9月5日にヤイロチョウ *Pitta nympha* を1羽標識した。ミソサザイ *Troglodytes troglodytes* を少数ながらほとんどの年で標識した。コルリ *Luscinia cyane* も年により個体数の変動はあるが、ほとんどの年で標識した。マミジロ *Zoothera sibirica* は1999年以来、標識されるようになった。クロツグミ *Turdus cardis* は年により個体数の変動はあるが、ほとんどの年で標識した。シロハラは1995年

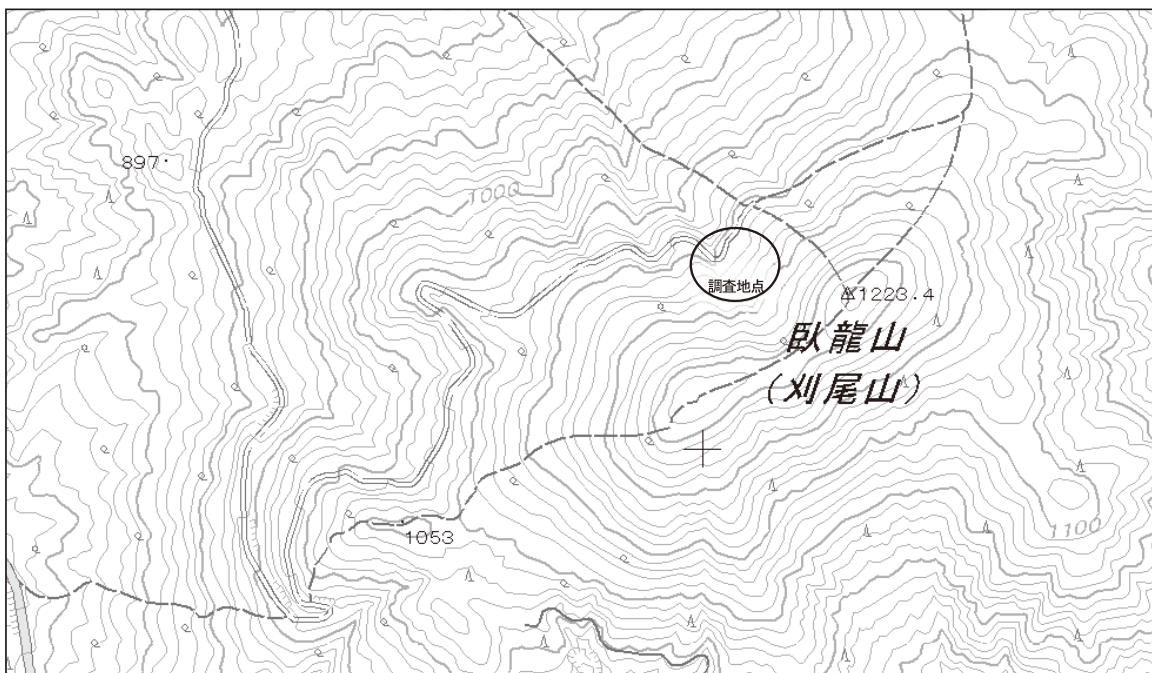


図1 調査地

表1 臥竜山における標識調査結果 (1992年～2008年)

年	92	93	94	95	96	97	98	99	2000	01	02	03	04	05	06	07	08	計
調査日数	3	6	9	10	8	9	7	9	8	9	10	6	2	8	6	7	7	122
アオゲラ									1									1
アカゲラ	1					3	1	2		1		1						9
オオアカゲラ											1		1					2
コゲラ																	1	1
ヤイロチョウ		1																1
キセキレイ									1						1			2
ヒヨドリ	2										2							4
ミソサザイ		1	1	4	1	3	4	2	1	3	2	2		2		3	2	31
コルリ		4	5	6	1	4	2	4	4	14	14			4	7	17	10	96
マミジロ	1							3	1	2	1				1		1	10
トラツグミ					1					1								2
クロツグミ		2	7	5	1	2	1		3		5	6		1	1	4	2	40
シロハラ				1			1									1		3
ヤブサメ	1	2	6	3	3	1	4	5	6	2	6				4	4	2	49
ウグイス	1		6	2	4	6	7	8	4	10	6	1	1	2	1	2	7	68
メボソムシクイ							1		2	1	2				4	2		12
センダイムシクイ											1							1
キビタキ		2	5	18	3	12	8	17	12	25	8	2	3	11	33	30	23	212
ムギマキ		1																1
オオルリ	1	2	3	6	4	18	13	19	7	11	17	1		8	5	13	5	133
コサメビタキ							1	1			7	2			1	1		13
エナガ				1			2				3				1			7
コガラ	2	1	1	4	2	3	2	4	3	3	8	1	4	1	2	7		48
ヒガラ		1		6	7	7	4	3	2	3	10		4	6	8	11		72
ヤマガラ	1		1	4	7	5		4	3	2	5	1	2	1	3	7	3	49
シジュウカラ	1	7	6	10	19	18	7	6	5	6	14		6	6	2	6	3	122
ゴジュウカラ					5	1	1	4	1	4	9				2	1		28
メジロ							2				6							8
ホオジロ			15	2														17
ミヤマホオジロ										1								1
クロジ																1	3	4
イカル									1									1
カケス																	1	1
ソウシチョウ													3				6	9
計 34種	11	24	56	72	58	83	61	82	56	90	127	17	24	42	76	110	69	1058

8月18日, 1998年8月13日, 2007年8月16日に各1羽標識した。ヤブサメ *Urosphena squameiceps* とウグイス *Cettia diphone* は年により個体数の変動はあるが, ほとんどの年で標識した。メボソムシクイ *Phylloscopus xanthodryas* は1998年以來, 少数の個体が標識されるようになった。2002年8月21日にセンダイムシクイ *P. coronatus* を1羽標識した。キビタキ *Ficedula narcissina* は総数で212羽, オオルリ *Cyanoptila cyanomelana* は133羽で, 両種を多く標識した。1993年5月11日にムギマキ *Ficedula mugimaki* を1羽標識した。シジュウカラ科では, コガラ *Poecile montanus* を48羽, ヒガラ *Periparus ater* を72羽, ヤマガラ *Poecile varius* を49羽, シジュウカラ *Parus minor* を122羽標識した。メジロ *Zosterops japonicus* は8羽と少なかった。ホオジロ *Emberiza cioides* は1994年に15羽, 1995年に2羽標識したのみであった。2001年7月21日にミヤマホオジロを1羽標識した。クロジ *Emberiza variabilis* は2007年8月14日に1羽, 2008年8月14日に1羽, 8月18日に2羽標識した。イカル *Eophona personata* を2000年8月15日に1羽標識した。カケス *Garrulus glandarius* を2008年8月15日に1羽標識した。ソウシチョウ *Leiothrix lutea* を2004年9月5日に3羽, 2008年8月14日に4羽, 8月17日に2羽標識した。なお, 1992年は3日間, 2004年は2日間しか調査できず, 標識個体数がそれぞれ11羽, 24羽と少なかった。

コルリ、キビタキ、オオルリの1日あたりの標識個体数の経年変化を図2に示す。近年、キビタキの標識個体数が増加し、コルリとオオルリでは増加は認められなかった。なお、2003年と2004年については、3種の渡りが多い8月の調査日数が2003年が2日、2004年が0日と少ないので図2から削除した。

考察

キツキ科ではアオゲラを1羽、アカゲラを9羽、オオアカゲラを2羽、コゲラを1羽標識し、本調査地ではアカゲラが優占していることが示唆された。

臥竜山でのヤイロチョウの記録は始めてであった。ミソサザイはほとんどの年で標識され、調査地内での繁殖も確認されている(上野ほか1996)。コルリは年により個体数の変動があり、多い年では17個体標識し、調査地を渡りの中継地としていることが明らかになった。マミジロは1999年以來、標識されるようになり、この頃から臥竜山で繁殖するようになっている(上野 私信)。クロツグミは年により個体数の変動はあるが、ほとんどの年で標識し、臥竜山での繁殖も確認されている(上野ほか1996)。シロハラは臥竜山での繁殖が1991年以來確認されており(上野ほか1993, 1996)、1995年8月、1998年8月、2007年8月に標識したことから、現在も少数の個体が繁殖している可能性がある。ヤブサメ、ウグイス、メボソムシクイは年により個体数の変動はあるが、ほとんどの年で標識し、調査地を渡りの中継地としていることが明らかになった。メボソムシクイは1998年以來、少数の個体が標識されるようになった。センダイムシクイとムギマキは1羽のみの標識であり、調査地は渡りの中継地となっていないようである。キビタキは総数で212羽、オオルリは133羽を標識し、多くの個体が渡りの中継地としていることが明らかになった。シジュウカラ科ではコガラを48羽、ヒガラを72羽、ヤマガラを49羽、シジュウカラを122羽標識した。これらの種は調査地内で繁殖しており、幼鳥も多く標識した。メジロは8羽と少なく、調査地内では繁殖は確認されていない(上野ほか1996)。ホオジロは1994年に15羽、1995年に2羽標識したのみであり、調査地内では少数の個体が繁殖している(上野ほか1996)。ミヤマホオジロは臥竜山一帯で1993年以來繁殖が確認されており(上野ほか1996, 1997)、2001年7月に1羽を標識しことから、この個体も調査地内で繁殖に関与していた可能性がある。クロジは2007年8月に1羽、2008年8月に3羽標識したが、うち2008年の1羽は幼鳥であり、調査地内で繁殖していることが明らかになった。イカルとカケスを1羽ずつ

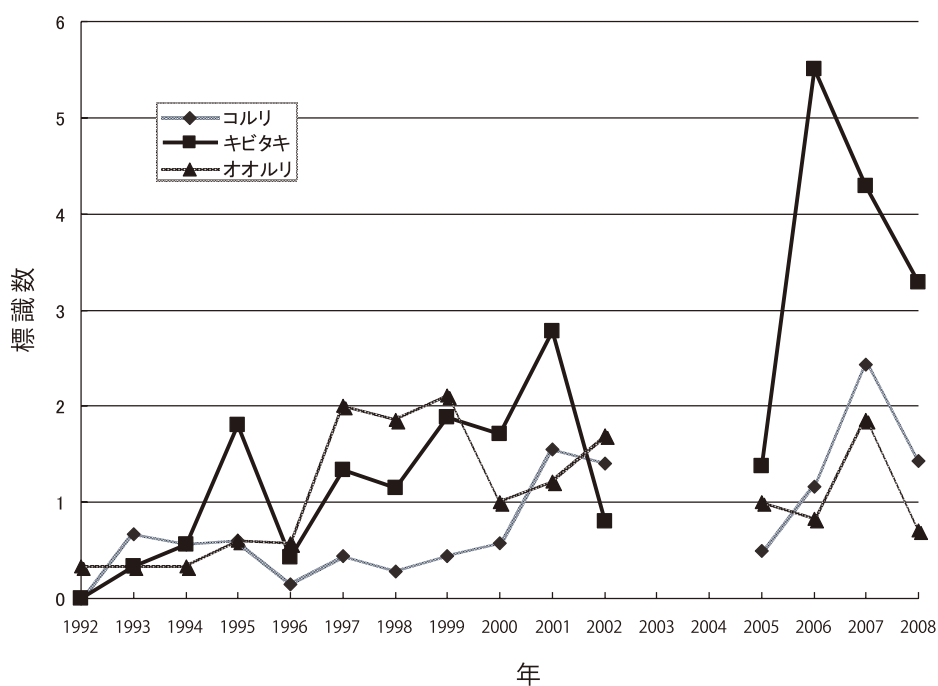


図2 コルリ・キビタキ・オオルリの1日あたり標識数の推移

標識したが、両種とも調査地内で繁殖している（上野ほか 1996）。ソウシチョウを 2004 年 9 月に 3 羽、2008 年 8 月に 6 羽標識した。

今回の調査で、夏鳥の減少についての証拠は得られなかったが、キビタキの個体数が増加傾向にあることが明らかになった。

謝辞

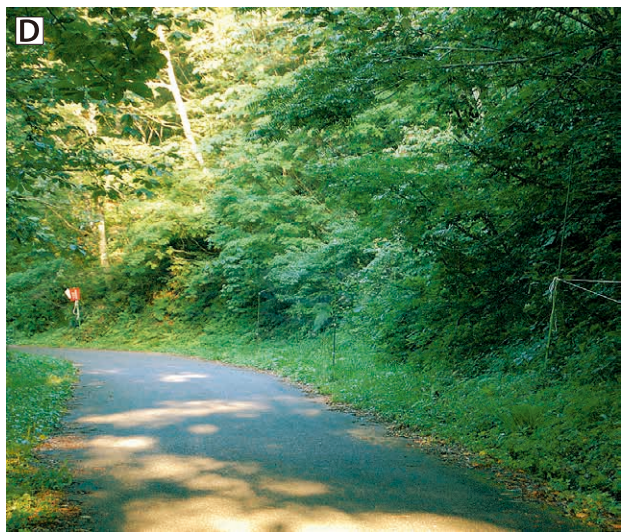
本報告を行うにあたり、発表の機会を与えて頂いた広島県立廿日市特別支援学校の上野吉雄氏にお礼申し上げます。

摘要

1. 広島県臥竜山において 1992 年から 2008 年にかけてのべ 122 日間、鳥類標識調査を行った。
2. 本調査で臥竜山でヤイロチョウが初めて確認された。
3. コルリ、オオルリ、キビタキ、ヤブサメなどが調査地を渡りの中継地としていることが明らかになった。
4. マミジロ、シロハラ、ミヤマホオジロなどが調査地内で繁殖していることが示唆された。
5. センダイムシクイとムギマキでは調査地が渡りの中継地になっていないようである。
6. クロジが調査地内で繁殖している証拠が得られた。

参考文献

- 大丸秀士（1980）臥竜山の鳥類。森のたより 4：9-12.
- 日比野政彦（2001）広島県・臥竜山の標識と夏鳥の変動。ALULA22：9-10.
- 上野吉雄・東常哲也・山本 裕・日比野政彦・飯田知彦（1993）西中国山地におけるシロハラ *Turdus pallidus* の繁殖。日本鳥学会誌 41：17-19.
- 上野吉雄・杉島 洋・保井 裕（1995）西中国山地におけるミヤマホオジロ *Emberiza elegans* の本州初の繁殖。日本鳥学会誌 44：229-230.
- 上野吉雄・保井 浩・山本 裕（1996）広島県芸北町の鳥類。高原の自然史 1：291-393.
- 上野吉雄・河津 功・保井 浩（1997）広島県芸北町臥竜山におけるミヤマホオジロの繁殖生態について。高原の自然史 2：95-99.
- 上野吉雄・荒木 信・小柴正記・日比野政彦（2004）西中国山地におけるソウシチョウの生息状況。高原の自然史 9：111-121.



A : 調査地
B : 調査地
C : 標識調査の様子 (谷筋)
D : 標識調査の様子 (道路脇)
E : ムギマキ (オス)
F : ヤイロチョウ

1993年5月11日
1993年9月5日



A : シロハラ (メス) 2006年8月16日
 B : シロハラ (メス) 2006年8月16日
 C : シロハラ (抱卵斑) 2006年8月16日
 D : マミジロ (オス) 2006年8月14日
 E : マミジロ (メス) 2006年8月16日
 F : マミジロ (抱卵斑) 2006年8月16日



A : クロツグミ (オス) 2006年8月16日
B : クロツグミ (メス) 2006年8月16日
C : クロジ (オス) 2008年8月14日
D : クロジ (メス) 2008年8月16日
E : クロジ (抱卵斑) 2008年8月16日



A : アカゲラ 2003 年 6 月 14 日
 B : ミソサザイ 2008 年 8 月 15 日
 C : ヤブサメ 2006 年 8 月 15 日
 D : ウグイス (幼鳥) 2008 年 8 月 17 日
 E : コルリ (オス) 2006 年 8 月 16 日
 F : オオルリ (幼鳥) 2006 年 8 月 14 日



A : キセキレイ 2006年8月13日
 B : キビタキ 2009年8月19日
 C : ゴジュウカラ 2009年8月14日
 D : メボソムシクイ 2006年8月16日
 E : カケス 2009年8月17日
 F : ソウシチョウ 2008年8月14日